

2024年4月12日
団体年金事業部

ざっくり理解する年金財政・企業会計シリーズ(第2回) ～ 退職給付会計の概要 ～

本年金通信では、確定給付企業年金(以下、DB)を担当している方や新たに担当する方に財政運営や周辺の会計知識について、全体像をざっくりと理解してもらうことを目的としています。

別途発信している「**企業年金の財政運営の基礎知識**」では詳細な説明がありますが、本年金通信はその導入となる読み物の位置付けですので、ぜひ事前にご一読ください。

第2回となる今回は、退職給付会計の概要について取り上げます。退職給付会計は、企業の退職金の支払義務を適切に財務諸表へ反映するための会計処理です。退職給付会計とはどのようなものか全体像をざっくり理解いただくために本テーマを取り上げます。

本シリーズが、企業年金の理解の一助になれば幸いです

■「企業年金の財政運営の基礎知識」のリニューアルについて

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1743>

こちらの年金トピックに収録テーマとリンクを掲載しております。

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1837>

こちらに「ざっくり理解する年金財政・企業会計シリーズ(第1回)」を掲載しております。

ざっくり理解する年金財政・企業会計シリーズ(第2回)

～ 退職給付会計の概要 ～

1. 退職給付会計の概要

(1) 退職給付会計とは

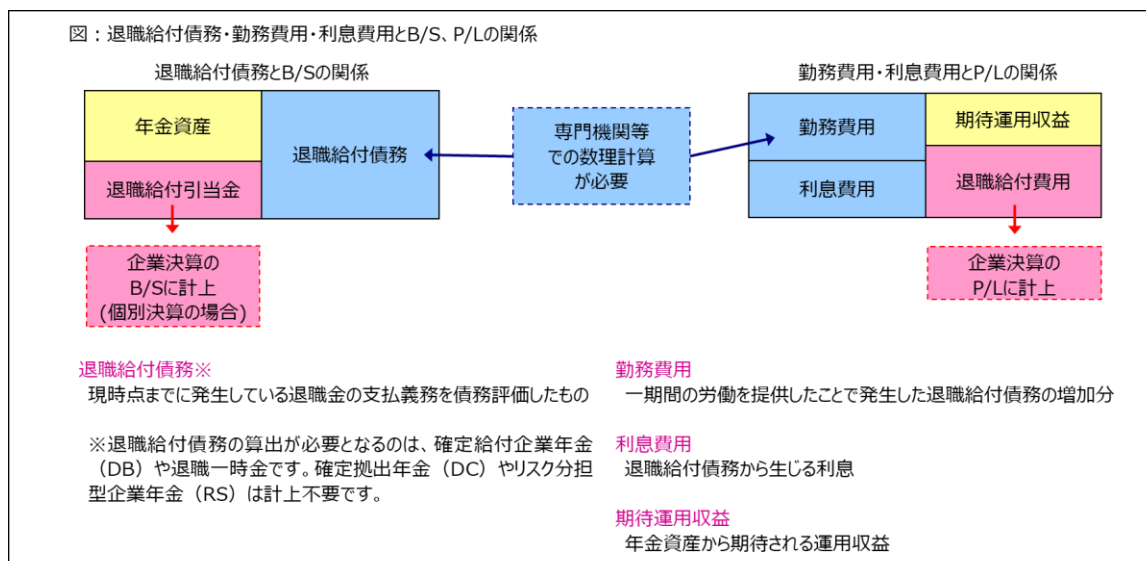
退職給付会計とは、労働の対価として企業が負っている退職金の支払義務を貸借対照表（B/S）と損益計算書（P/L）に適切に反映させるための会計処理のことを言います。

参照：財政運営の基礎知識「テーマ 30」

(2) 退職給付会計の役割

退職金は、従業員が日々企業へ労働力を提供した対価として順次積みあがっていく性質のもので、例えば1年間働くとその分だけ退職金が増加し、同時に企業は退職金の支払義務を追加で負うことになります。この目に見えない退職金が積みあがる動きを“見える化”するのが退職給付会計の役割です。ここで、退職金の支払義務を**退職給付債務**として負債計上、1年間の退職給付債務の増分を**勤務費用（及び利息費用）**として費用計上します。

下図は、退職給付債務・勤務費用・利息費用とB/S、P/Lとの関係を示した図です。¹



B/Sには、退職給付債務がそのまま計上されるのではなく、退職給付債務から年金資産を控除したものが退職給付引当金として**負債計上**されます。²

P/Lには、勤務費用と利息費用の合計から期待運用収益を除いたものが**退職給付費用**³として計上されます。

¹ DBを実施している場合の図となります。

² 年金資産が退職給付債務を上回る場合は前払年金費用として資産計上されます。

³ 正確には未認識数理計算上の差異の費用処理額等の費用項目もあります。詳細はテーマ 30 をご参照ください。

また、退職給付債務の計上対象はD Bや退職一時金であり、確定拠出年金（D C）やリスク分担型企业年金（R S）は退職給付債務の計上対象ではありません⁴。一方で、退職給付費用については、D CやR Sにおいて拠出した掛金額を退職給付費用に計上します。

2. 退職給付会計の仕訳

退職給付会計の概要を理解するうえで、是非押さえておきたい2つの仕訳を紹介します。

(1) 退職給付費用に係る仕訳

1つ目は退職給付費用に係る仕訳です。以下は、主な退職給付費用の構成要素です。

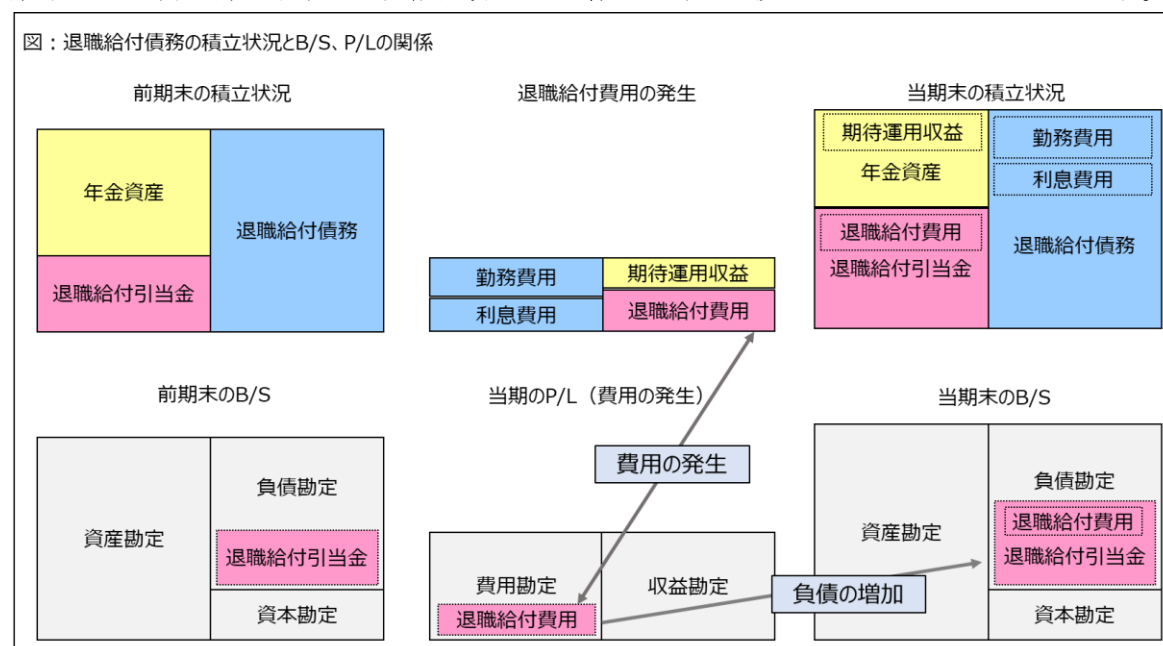
- | | |
|--------------|--------------------------------|
| ① 勤務費用（費用） | ： 一期間の勤務を提供したことで発生した退職給付債務の増加分 |
| ② 利息費用（費用） | ： 退職給付債務から生じる利息 |
| ③ 期待運用収益（収益） | ： 年金資産から期待される運用収益 |

例えば、勤務費用が150,000円、利息費用が10,000円、期待収益が60,000円であった場合の退職給付費用は150,000円（勤務費用）＋10,000円（利息費用）－60,000円（期待運用収益）＝100,000円（退職給付費用）となります。この時の仕訳は以下の通りとなります。

【仕訳例】

（借）退職給付費用 100,000（費用の発生） （貸）退職給付引当金 100,000（負債の増加）

この仕訳を図にしたものが下図です。P/L（下側中央の図）で退職給付費用が計上されるとともに、当期末のB/S（下側右の図）の退職給付引当金の増加という形で反映されている点がポイントです。



⁴ R Sは一定の要件を満たさない場合、退職給付債務の計上対象となります。

ここで退職給付会計上は、退職給付債務そのものをB/Sに計上せずに退職給付債務と年金資産の差額を退職給付引当金(年金資産>退職給付債務の場合は前払年金費用)として計上します。

なお、退職給付引当金は個別財務諸表の勘定科目であり、連結財務諸表では退職給付にかかる負債に名称が変わるのでご注意ください。

(2) DBの掛金に係る仕訳

2つ目はDBの掛金拠出に係る仕訳です。お客さまとやり取りする中で、「DBの再計算で掛金が増えてしまったが、退職給付費用が増えてしまうのではないか？」といったご質問を受けることがあります。

DBの掛金としてキャッシュを拠出するため費用を負担した感覚を持たれるのは自然です。ただし、実際の会計処理上はDBの掛金拠出は退職給付費用に含まれません(実際、前頁の退職給付費用の構成要素にもDB掛金が含まれておりません)。

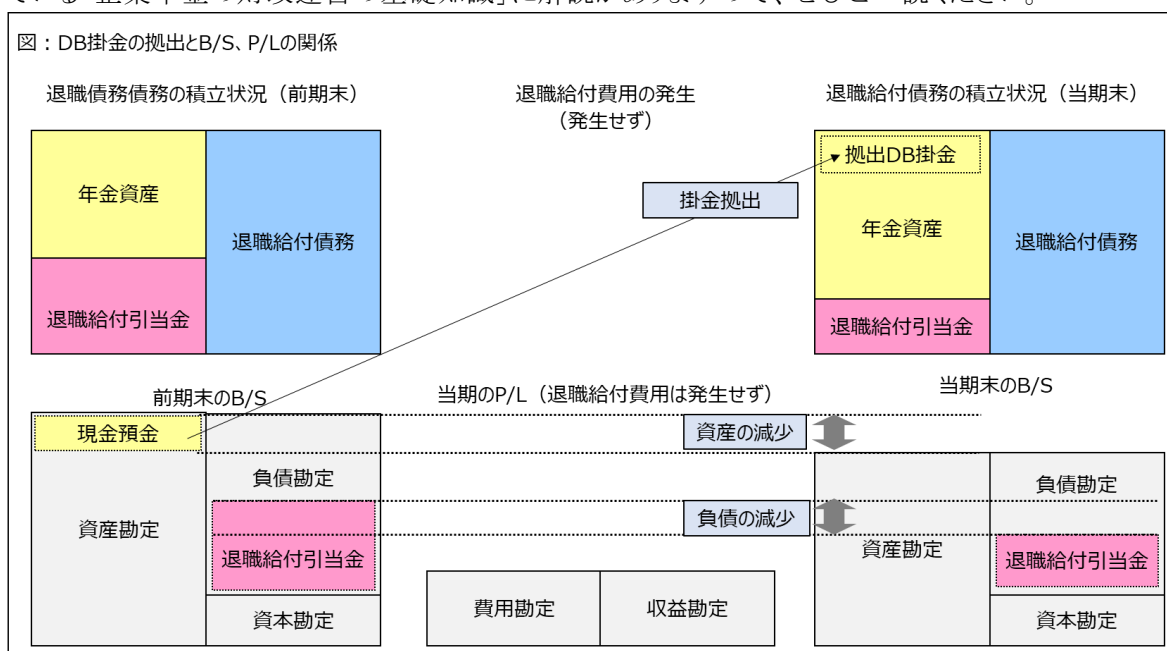
以下は、DBへ100,000円の掛金を拠出した場合の仕訳例です。

【仕訳例】

(借) 退職給付引当金 100,000(負債の減少) (貸) 現金預金 100,000(資産の減少)

この仕訳を図にしたものが下図です。前期末のB/Sで計上されていた現金預金が掛金として拠出されたことで当期末の年金資産が増加し、その結果、退職給付引当金が減少しています。つまり、「資産の減少」と「負債の減少」となり、P/Lには影響していないことが分かります。

今回は、退職給付会計の概要について説明しました。より詳細な説明が必要な場合は、別途発信している「企業年金の財政運営の基礎知識」に解説がありますので、ぜひご一読ください。



(第3回に続く)